

令和8年度第1回三重県子ども読書活動推進会議 概要

1 開催日時 令和8年7月24日（金）9時30分から11時30分まで

2 場 所 三重県合同ビル G101会議室

3 出席委員

青木委員、飯田委員、木村委員、別所委員、伊東委員、竹花委員、岸委員、瀬古口委員、山添委員、天春委員、荒川委員

4 傍聴者 0名（公開で実施）

5 協議事項

(1) 読書習慣の普及に向けた効果的な取組について

＜委員の主な意見＞

○教科書の販売等をする地元の書店が減っているのは確かであるが、読書時間の減少に直結しているかは、分からない。子どもが楽しみにしている雑誌「小学1年生」等がなくなり、書店に行く機会が減っているようには感じる。親御さんと一緒に来た際には、子どもは勝手に絵本等を読むことがあり、本に夢中になって帰らないこともある。売り場をつくるのは大事だ。

（別所委員）

○町内の小学校へ朝読用の団体貸出をしており、図書館からきた本を子どもたちが取り合っているとの声があった。本がある環境であれば、子どもたちも本を読んでもくれる。町立図書館等に子どもたちだけで来ることも難しいので、学校等に届けることも大切だと感じる。

（岸委員）

○園においては、読み聞かせを行っており、保護者の方にも、読み聞かせや親子への貸出をしている。保護者の方にも本を好きになってもらうことが大切。地域にも絵本の貸出をしており、幼児期のうちに絵本が大好きな習慣をつけ小学校へつなげたい。

（瀬古口委員）

○子どもたちの読書については、二極化しており、休み時間も読んでいる子はいるが、学年が上がると、1年間で数冊も読まない子もいる。教室の中に意図的に本がある等、読書環境は非常に影響を与えと思う。家庭、保護者の意識をどのように読書に持っていくことができるか。地道に根付かせることが大切だと感じる。

（竹花委員）

○子どもたちが興味を持っている本があれば、読んでもらえる。読んでほしい本と子どもが興味を持つ本は違う。いろんな視点で本を用意して、子どもたちが好きな本を見つけてもらうため、様々な本を置いておくことが大切。

（伊東委員）

(2) 教員による読書習慣普及のアプローチについて

＜委員の主な意見＞

○話し言葉は話せるが、書き言葉が読めない子がいる。本は書き言葉であるため、書き言葉を読める子を育てないといけない。絵本も書き言葉であるため、読み聞かせも重要である。小学校3、4年生になると図書館に行かなくなるため、そこでどうやって

学校へ引っ張るかが重要なのではないか。ビブリオバトル、ブックトーク、朝読は、効果があると思う。高校生などの時間がない子は、リラックスの時間などに、耳でも聞いてもらいたい。そういった子には、読み聞かせや、スケールを使う等、あの手この手で、読むのを推奨したい。（木村委員）

- 学校図書館活用アドバイザーや読書ボランティアのアドバイザーとして、学校と相談する方が必要だと感じる。ボランティアの方が、読み聞かせの前に、おすすめの本を1冊紹介するシステムがあるとよい。

（木村委員）

- 学生に文章を書かせると、話し言葉が多く出てくることがある。これは、幼少期から書き言葉に触れる機会が少ないことが影響していると考えられる。話していることがメモできない、パワーポイントを写真で撮る等、画面等でしか、理解できない子が増えていく危機感を感じる。

（青木委員）

- 母親や父親に本を読む習慣があれば、子どもにも本を読む習慣ができると感じる。読書に強く取り組んでいる地域では、朝読や学級文庫、図書館での借り方を教えてもらうなど、地域の環境にも大きく左右されると考えられる。

（飯田委員）

- 全ての学校で同様の取組をすることは難しいが、教員一人ひとりが、本の大切さをどれだけ理解できるかが、大切だと感じる。図書館司書を活用して市の図書館からこういう本を借りてほしいと頼む担任もいる。そういった取組を全校展開していくことが重要だと思う。

（竹花委員）

- 幼児期のうちに、文字が読めるようになって、自分で読めることがお話を楽しめることにつながる。啓発が大事。低学年が大切。小学校に入った途端、自分で読むようにとする方がいるが、読み聞かせを保護者の方にしてもらうことが、大変重要なことだと思える。

（瀬古口委員）

- 学校における支援の方々（旗当番の方も含め）に本の大切さを分かってもらうことが必要。小さい頃から、周りの人が、本の重要性を知っていることが大切。支援の方々に、そのような話を伝える機会があるとよい。

（木村委員）